

評価項目	評価指標	具体的方策	評価基準				最終評価			
			4	3	2	1	評価	成果〇と課題▲	改善策	
確かな学力を身に付けた児童の育成	〇各学期末テスト（知識・技能）の通過率80%未満を〇に近付ける。（基礎問題）	〇基礎問題通過率80%未満の児童に対して個別指導を充実させる。 （朝・昼学習、給食前学習、放課後学習、海小タイム、家庭学習の充実） 〇基礎計算を重視する。 （家庭学習、ドリルタイムの活用） 〇音読を重視する。（家庭学習、授業） 〇条件に合わせて書く活動を通して、表現する力を高める授業づくりを行う。 （海小タイム、朝帯タイム、各教科内で実を伴う活動） 〇読書活動を充実させる。 （読書タイムや並行読書を通して、本との出会いの場を設け、不読率を下げる）	通過率 80%未満の割合	0～5% 未満	5～10% 未満	10～15% 未満	15% 以上	2	【各学期末テスト（知識・技能）の通過率80%未満の割合】 国語科10.3%（39/377人） 算数科15.3%（58/377人） 【標準学力調査の記述問題で平均正答率が目標値を上回った割合】 9.4% <国語科100%（6/6学年） 算数科100%（6/6学年） 理科7.5%（3/4学年）> 〇ドリルタイムや給食前学習や放課後学習のいずれも、計画的・定期的を実施してきたことで、学習に苦手意識のある児童が前向きに取り組むことができた。 〇海小タイムで条件に合わせて書く学習に取り組ませたり、授業のまとめや振り返りで視点を示して書かせたりすることで、文章を書くことに対する抵抗感が減った。 〇デジタル機器を活用した授業づくりを通して、自分の考えを持ち、他の児童と交流しながら自分の考えを深める力が付いてきた。 〇「いい時間の部屋」で、多くの児童が図書室の本と並行して、本を借りて読むようになった。 ▲朝のドリルタイムを時間いっぱい確保できないときがあった。 ▲よりよい家庭学習の仕方を、児童全体に広げていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的計算の一つである2年生で学習するかけ算九九の定着に向けて、2・3月は海小タイムや休憩時間などに担任以外の職員や高学年に聞いてもらう等の取組を工夫する。 次年度は時程を変更し、朝のドリルタイムを確実に確保することができるようにする。 家庭学習のさらなる質の向上を目指して、職員間で取組を共有し、指導に取り入れていく。
	〇標準学力調査の記述問題で平均正答率が目標値を上回る。	目標値に対する 学校平均正答率	上回る	同等	10Pt 未満 下回る	10Pt 以上 下回る	4			
人や時間を大切にすることができる児童の育成	〇気持ちの良い挨拶ができる児童 80%	〇各クラスによる校門でのあいさつ運動を行う。 ・朝の挨拶運動 ・挨拶のきっかけ作り 〇登校班での育成を行う。 ・登校班長指 ・ビックアップ指導 〇心の元気委員会を活用して啓発を行う。 ・月1回の挨拶運動 ・全校への啓発等 〇継続した振り返りを行う。 ・自己評価 ・挨拶の意義の確認 〇挨拶名人表彰を行う。 ・学期ごとにクラスで2名挨拶を頑張った児童を選出し表彰する。 〇海田西中学校区あいさつ目標の確認を行う。 ・立ち止まって ・相手の目を見て ・自分から	児童の自己評価を 踏まえた教師の見取り	80%以上	75% 以上	70% 以上	70% 未満	4	【アンケートで気持ちの良い挨拶ができたと回答した児童の割合】 （先生に対して）92%（地域の人に対して）87% （友達に対して）90%【全体】90% 各項目共に中間報告より5ポイント ていど良くなっている。 〇朝の「あいさつ運動」の担当学級が活動のめあてを話し合い、前日に校内放送で放送することで担当学級以外の児童のあいさつへの意識が高まった。 また、担当学級の児童も自分たちが決めたこと放送されたことで、次の日の「あいさつ運動」のモチベーションになった。 〇式や朝会などの「校長先生のお話」で、必ず「きもちのよいあいさつ」の話をされるので、児童の意識に自然に「きもちのよいあいさつ」というキーワードが頭に入っている。 ●地域の方々への肯定的評価が他に比べて低い。	<ul style="list-style-type: none"> 週ごとに担当学級を置いて、学級ごとにめあてを設定して実施する「あいさつ運動」の取組は、あいさつの意識や主体性を高めることにつながっており、今後も継続していくこととする。 地域の方々への肯定的評価が他に比べて低いが、「地域の人」とはどのような人たちなのか認識が低いことがあるため、地域の方々とは具体的には「交通ボランティアさんやお友達のお家の人」であることを再度確認するとともに、関係する委員会を中心に、見守って下さっているこれらの方々への挨拶の意識を促す。
	〇チャイムと同時に学習が始められる児童 80%以上	〇児童の意識向上と継続指導を行う。 （チャイムと同時に学習が始めることの意義の説明、全校指導、学級指導等による啓発、評価） 〇教員の意識を徹底させる。 （休憩時間の確保、授業終了時刻の厳守） 〇振り返りを充実させる。 （自己評価、次の授業の準備をすることの意義の確認）	児童の評価を踏 まえた教師による 見取り	80% 以上	75% 以上	70% 未満	70% 未満	4	【チャイムと同時に学習が始められる児童の割合】（全体）98% 〇4月当初からの取組の成果により、調査期間だけでなくその他のきかんも「着ベル」ができてきている増えた。 〇調査をすることで、自分たちが頑張っていることがチェックできる機会となり、更に普段から「頑張ろう」という意識に繋がっている。	<ul style="list-style-type: none"> 「着ベル」はできるようになってきたが、寒さのあって手洗いがおそろかになりつつあるので、こまめに声掛けをするようにする。
進んで運動し体力を高める児童の育成	〇50m走の記録が伸びた児童 70%以上	〇大休憩、学級タイム、ロング昼休憩では、原則、児童全員外遊びをする。 〇運動委員会の児童を中心に、大休憩や昼休憩に鬼ごっこをする環境を整える。	50m走を4月と12月に測定し、 記録が伸びた児童の割合	80% 以上	70% 以上	60% 以上	60% 未満	3	【50m走を4月と12月に測定し、記録が伸びた児童の割合】 （全体）77% 〇10月実施の町陸や12月実施の走走大会といった「走る」行事があり、目標をもって取り組む児童の姿が見られた。 〇夏休みと冬休みに体力アップ貯金カードを用いて、長期休暇も児童が継続して運動する環境を整えた。多くの児童が目標値を超えており、意欲的に取り組むことができた。 ▲コロナ感染症対策によるマスク着用の影響もあり、走力を中心に、全国平均と同様に、各種体力低下の傾向が見られる。	<ul style="list-style-type: none"> 体育の時間や休憩時間において運動する際、マスクを外すよう周知をしているが、マスク着用の児童が見られる。運動する際は、マスクを外して全力で運動するよう周知徹底する。 「走る」遊びと言えば、鬼ごっこをする傾向が高かった。鬼ごっこ以外で「走る」に重点を置いた遊びを紹介し、広がっていくよう運動委員会の児童が主体として組んでいく。
元気に学校へ来ることができる児童の育成	〇生活リズムカレンダーで自分が設定した就寝時刻の目標が達成できた割合 70%以上	〇学級活動及び保健の授業、生活リズムカレンダーや保健委員会による啓発等により、生活リズムを整えるための基礎作りをする。	生活リズムカ レンダーの早寝の 項目においてA 評価の児童70% 以上	80% 以上	70% 以上	60% 以上	60% 未満	3	【生活リズムカレンダーで自分が設定した就寝時刻の目標が達成できた割合】72.3% 〇保健委員会の児童発表や、各学級に合わせた指導、保健だよりによる啓発を通じて、取組の目的を意識づけ、振り返りを行った。 ▲3回分の生活リズムカレンダーの集計結果を活用しきれしていない。児童の実態把握や分析、指導に活かしたい。	<ul style="list-style-type: none"> 2月末に実施予定の学校保健委員会 で、医師と保護者に生活リズムカ レンダーの取組について報告する。医師から 助言をいただいたり、保護者の意見を聴 いたりして、来年度に活かす。
業務改善	〇時間外勤務45時間以内の職員の割合を70%以上	〇水曜日は原則定時で退校する。 〇業務の効率化と協働化を進め、全職員による並行作業を行う。 〇学期末に評価に関する事務を行う日を設定する。	入退校時刻記録 を基にした時間 外勤務45時間以 内の職員の割合 を70%以上	80% 以上	60% 以上	40% 以上	40% 未満	2	【4～1月末日までの9か月平均の時間外勤務45時間以内の教職員の割合】58.8% 〇職員会議や各部会を計画的に実施するとともに、行事予定に分掌や成績等の作業時間を確保していくことが定着したことは、業務時間の短縮につながっている。 ▲2学期以降、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響が、これまで以上に大きかった。特に、教職員及び教職員の家庭における感染から、欠勤を余儀なくされた者もあり、欠勤者担当授業の補充による授業数の増加も多かった。欠席した児童に対しての連絡や授業準備等、家庭との連携にも多くの時間がかかった。	<ul style="list-style-type: none"> 退勤時間の自己管理システム化や、週の中日における定時退校日を設ける等の取組を継続して行っていく。 教科担任制やスクールサポートスタッフの活用等の学校体制の利点を生かし、授業等の準備物作成の効率化を図る。 職員会議や各部会を計画的に実施するとともに、各種会議と並行して実施する作業をより効果的に取り入れ、時間短縮につなげる。